

心筋バイアビリティの評価とPET

監修：篠山重威(京都大学大学院医学研究科循環病態学／第三内科)

指導：野原隆司(京都大学大学院医学研究科循環病態学／第三内科)

制作年度：1997年

ビデオ/16mmフィルム 上映時間：16分

虚血によって、一見不可逆的な壁運動異常に陥っている心筋でもPTCAなどの血行再建によって回復してくる症例は少なくありません。このように、血行再建によって心筋が回復するかどうか、つまり壁運動異常の心筋にバイアビリティがあるかどうかを診断することに、今大きな関心が集まっています。

PETは、そのバイアビリティ診断を初め、心筋の病態を追求するために有力な手段となります。従来、この目的では、トレーサーとして、心筋血流を反映する ^{13}N -アンモニア、糖代謝を反映する ^{18}F -FDGが広く用いられていますが、最近では、ミトコンドリア酸素代謝を直接に反映する ^{11}C -酢酸PETが注目されています。

このビデオでは、心筋バイアビリティを検討するという観点から、 ^{13}N -アンモニア、 ^{18}F -FDG、 ^{11}C -酢酸を用いたPETの特徴を解説し、定量的に心筋局所のグルコース代謝を評価できる ^{11}C -酢酸ダイナミックPETの実際をも紹介しています。

